



令和2年1月9日

佛教大学附属幼稚園

「新しい年のはじめに願いを てんげわじゅん 一天下和順」

園長 田中典彦

明けましておめでとうございます。令和、初めての新年、皆さまにはご健勝でお迎えのこととお慶び申し上げます。

子どもたちにとっては、今も昔もお正月がやってくるのは楽しみのようです。先日園児と話をしていると、ふと耳に聞こえてきました。「もういくつねると お正月」、なんだか久しぶりに懐かしく感じました。「あのね、お正月になったらね、いいもの買ってもらうの」くちぐちに、私はあんなもの、僕はこんなものと言ってにぎやかでした。子どもたちにとっては、お正月は願いごとがかなえられる日なのは変わっていないようです。わたしの幼かったころは、下着や足袋や洋服も一年に一度新調してもらえるのがお正月だったのを思い出します。

願いごとといえば、お正月の行事に用いられるもののほとんどがそうです。仏や神に供えられる鏡餅もそのような意味をもっています。おもちの上に干し柿とミカンがのせられています。つい先日テレビで教えてもらったのですが、柿の成分はインフルエンザの予防にいいし、ミカンは体をあたため、動脈硬化を防いでくれるそうです。おもちはもちろんエネルギーなのです。元気に生かしてくれる栄養です。つまり寒いこの時期を健康に過ごせるように願いを込めているのでしょう。

仏教では毎年、正月元日を迎えて修正会という法要が営まれます。その時、新しい年への願いを込めて「祝聖文」（現世祈禱文）をお唱えします。一年の世界と人々の安穏を祈るのです。

「天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起 国豊民安 兵戈無用 崇徳興仁 務修禮讓」

また、寺院の堂塔などを建立する場合、上棟式の際にこの御文が書かれた「棟札」が棟木に安置されることとなっています。寺院の堂塔などは多くの人たちからの浄財によって建てられ、大変功德をもたらせるとされています。その功德として願われるのがこの御文の内容なのです。

「天下、すなわちこの世界が和やかでその法則に順じていて、太陽や月が清らかで明るく照らし、風や雨は適当な時に吹き、降ってくれて、災害や疫病が起こらず、国は豊かで人々がみんな安らかに生き、兵器を用いることなく、人々が互いにその徳を崇めあいつつ、思いやりの心を興し、人としての守るべき譲り合いの道を務めて修せますように」といった意味になるでしょう。

先日、一年の世相を表す「今年の漢字」に「令」という字が選ばれました。そして清水寺の貫主さまが大きな紙に大きくその字を書いて、「令の字は、かしまって神の声を聞くという意味のつくりを持つ。神の声を聞き、力を合わせ、助け合っていかなば」と語っておられました。まさに、世は「令和」、善い意思を以って平和な世界と安穏な生き方を築いてゆく時代になってほしいとの願いなのです。

当園では、今年も「明るく、正しく、仲良く」というののさまの教えに順じて、一人ひとりを大事にお育てさせていただきます。本年もどうぞよろしく願いいたします。